

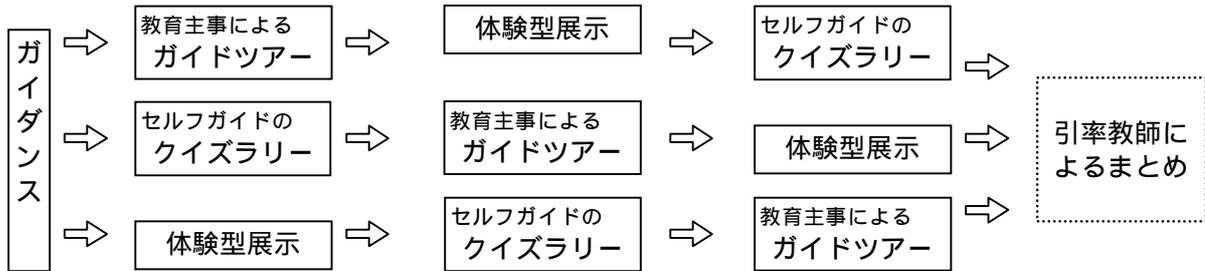
小6 社会(歴史)の発展学習として

甲府市立東小学校の6年生では、社会科(6年社会)の発展学習として、博物館で山梨県の歴史に関する資料を見学することにした。なお、児童数が102人と多いので、3グループ(クラスごと)に分け、ローテーションで見学することにした。

事前

教育課程に沿って学習した。授業において、「学習パッケージ」(山梨県総合教育センター http://www.ypec.ed.jp/center/kenkyukaihatu/nairyuuhoukokusyo/H17kiyou-houkokusyo/g_pack00/index.htm)が大変参考になった。

当日の流れ



小6 社会と関連するおもな展示資料

縄文土器。この土器に文様を付けるために使われた縄の複製も天井から下がっている。その先にはスピーカーが埋め込まれていて、縄文時代の様々な「音」が聞こえる。



甲斐国分寺の映像。例えば教育出版の教科書(21ページ)には、『天皇は、地方ごとに国分寺をおくことを命じ、...』とあるが、山梨での国分寺建立の様子を映像の力を借りながら理解できる。



例えば教育出版の教科書(18ページ)には、『木簡からよみがえる人々の暮らし』という小单元があり、伊豆国からカツオが、阿波国からワカメが平城京に届けられた木簡の写真が載っている。平城京からは山梨ゆかりの木簡も見つかっており、それが展示されている。そのうちの2つは、山梨からクルミが届けられたことを記録している木簡である。



例えば教育出版の教科書(16ページ)には、折り込みで『聖徳太子ワールド』というページがあるが、『聖徳太子が甲斐の黒駒に乗って、富士山に登った』という伝説がある。



子どもたちが5年生の時、社会で『稲作にはげむ人々』という学習をしているが、それを想起させながら、山梨の江戸時代の稲作と比較させた。



例えば教育出版の教科書(62ページ)には、『にぎわう都市、花開く文化』という单元の中で、浮世絵師の歌川広重が紹介されているが、その広重が甲府に来て、描いたのが、この幕絵である。



事後

「昔 = 遅れている」といった児童の概念が、江戸時代の循環型社会や工夫を凝らした体験型展示に接することによって変容していった。クイズラリーも、楽しみながらおのずと知見が広まる体験となり、有効であった。

一言

教師が意図した学習目標以外に、子どもたちは自分なりの多岐に渡る発見を持ち帰れた。見学の視点を決め調べ学習を仕組むことも大切であるが、見学の際は、自由な「ゆとり」「あそび」の時間を確保することも有意義なものであることが分かった。(甲府市立東小学校 饗場 宏)